

“血の道症”に芎帰調血飲が奏効した2例 ～気血虚損に気鬱をともなったときの一手～

渡部 志保 先生

若宮渡部医院

2002年 筑波大学医学専門学群 卒業、在学中Toronto大学、McMaster大学 留学
 2002年～東京大学医学部附属病院、日赤医療センター、関東中央病院 勤務
 2011年 東京大学大学院医学系研究科 博士課程修了(加齢医学)
 2016年 若宮渡部医院
 2024年 同副院長

はじめに

芎帰調血飲は『万病回春』に記された、産後一切の諸病に対して有効とされる処方であり、現代女性において適応病態は多いと思われる。

症例1

症 例：45歳 女性。

主 訴：倦怠感、動悸、息切れ、浮動性めまい、排卵痛・月経痛(臀部・肛門周囲痛)。

図1 症例1 45歳 女性

身体・検査所見

身長 158cm、体重 44kg、BMI 17.6、血圧 104/58mmHg、脈拍 90整、Hb 8.9g/dL、フェリチン 12ng/mL、上部消化管内視鏡検査：びらん性胃炎、逆流性食道炎(胆汁逆流あり)。

東洋医学的所見 気虚・脾虚、気鬱、血虚、血瘀

<自覚症状>

- 疲れやすい、暑がり、寒がり、手足が冷える、冷房は苦手、冬はカイロを使う、入浴の際に疲れて長湯できない。手掌に汗をかく。
- 食欲低下、胃痛、ゲップが出やすい。甘い物なら食べられる。水分はあまりとらない方。
- 睡眠：中途覚醒、不快な夢を見る。
- 排便：便秘がち(1行/2～3日)、膨満感。排尿は少なめ。
- 月経：出血量が多く月経痛が重い。月経前・排卵時に頭痛・腰痛・臀部痛。
- 気疲れする、よくため息をつくと言われる。氷を製氷皿一つ食べることがある。乾燥肌、かすみ目、眼瞼痙攣、肩凝り・頭帽感・手先のしびれ。

<他覚所見>

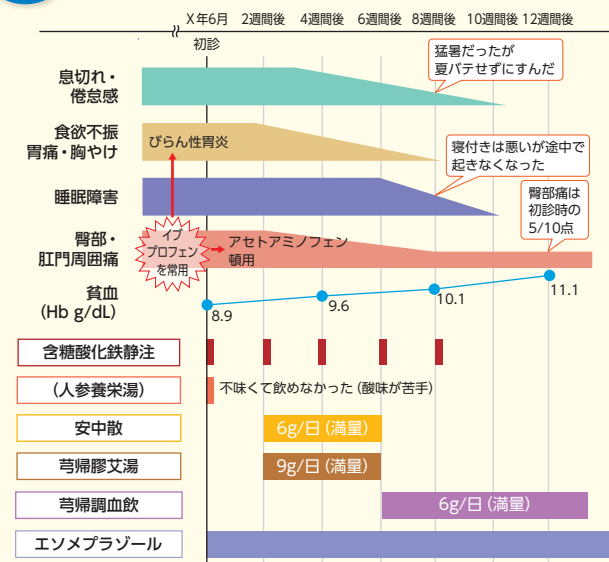
- 顔色不良、声・目に力がない、皮膚の甲錯(+)、二枚爪(+)、白髪(+)、足が冷たい、浮腫なし。
- 舌候：淡白紅、亀裂(+)、白苔(1+)、歯痕なし、舌下静脈の怒張(+)。
- 脈候：やや沈、やや虚。
- 腹候：腹力2/5、心下痞硬(+)、胃内振水音(+)、臍上悸(+)、下腹部に広範な圧痛(+)。

現病歴：40歳を過ぎてから家族や友人に顔色が悪いことを指摘される。月経痛(臀部痛)にイブプロフェンを頻用するため胃の調子が悪い。婦人科で子宮内膜症、子宮筋腫の診断でジェノゲストを処方されたが、出血と動悸・めまい・のぼせのため1ヵ月前に服用を中止した。半年前にCOVID-19に罹患して2kgやせてから疲れやすくなり精神的にもしんどいとのことで漢方治療の希望にて当院を受診した。

身体・検査所見／東洋医学的所見：図1に示す。

臨床経過(図2)：太陰病～少陰病期、気血両虚、気鬱、瘀血の病態と判断した。人參養榮湯を処方したが、不味くて服用できなかったため、安中散と芎帰膠艾湯に変方した。6週間後に症状の改善がみられたが、漢方薬を飲み忘れる、

図2 臨床経過(症例1)



ストレスがたまる、寝付けないとのことで芍婦調血飲 6g/日に変方した。12週間後にはHb値は改善し、臀部痛は軽減した。顔色も良くなり、現在も継続服用中である。

症例2

症 例：31歳 女性。

現病歴：妊娠前から貧血・動悸があり、流産した際に服用した当帰芍薬散は無効であった。月経前1週間は下腹部が張り、イライラして攻撃的となり、その後は気分が落ち込むが、月経後2週間は体調は良い。大型台風の際に、合併している喘息発作で子どもを守れるか不安になり動悸発作が出現、強風や寒暖差のある日には腹部から胸に動悸が突き上がってくる感じがして息苦しくなり不安になる。

身体・検査所見／東洋医学的所見：図3に示す。

臨床経過(図4)：陰証虚証で気血両虚、気鬱があるが、先急後緩の原則で気逆(奔豚気)が病態の中心と考え、苓桂朮甘湯と甘麦大棗湯を動悸時頓用で治療を開始、5週間後にCOVID-19に罹患して喘息が悪化し神秘湯を処方した。7週間後には顔色不良、咳は改善したが体重が減少し、立ちくらみ、手足の冷え、メンタルの低下、月経の遅れ、脱毛、便秘でガスがたまり苦しいとのことで、気血両虚+気鬱に対し芍婦調血飲 6g/日(分3)に変方した。その後、体調は良好であったが、13週間後に月経前に動悸発作が出現したため、苓桂朮甘湯と甘麦大棗湯(各1包)の頓用を追加し、以降も服用を継続している。

考 察

芍婦調血飲は産後に頻用されてきた処方で、気血を補い、体を温めて血行を促し、全身に栄養を行き渡らせて潤わせるほか、気血を巡らせる生薬を組み合わせた処方であり、女性の一生にわたって使用できる。

図3 症例2 31歳 女性

身体・検査所見

身長 157cm、体重 45kg、BMI 17.8、血圧 118/78mmHg、脈拍 90整、Hb 11.1g/dL、甲状腺機能異常なし、上部消化管内視鏡検査：逆流性食道炎。

東洋医学的所見 気虚・血虚、気鬱、氣逆、脾虚、上熱下寒

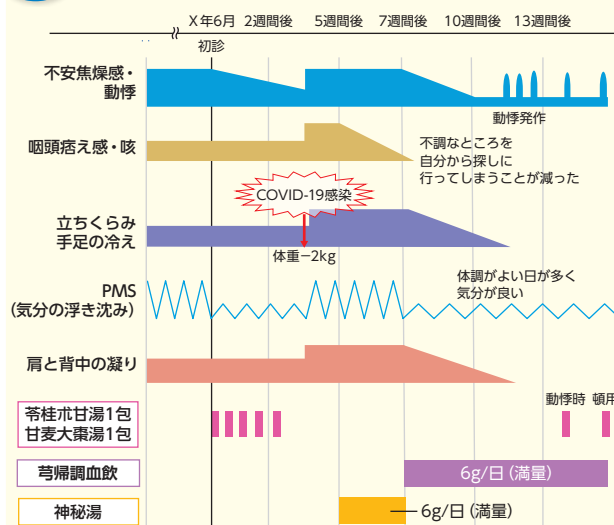
<自覚症状>

- 疲れやすい。手足は冷えやすい。冷房や冷たい飲み物は苦手、長風呂が好き。
- 汗はあまりかかない、手掌に汗をかく。
- 食欲：空腹感はあるが食べようという気持ちにならず無理して食べている。よく温かいお茶を飲む。
- 睡眠：寝付きが悪い。子どもに起こされて熟睡できない。
- 排便：月経前は便秘、月経開始後は軟便～快便、排尿は少なめ。
- 月経：35日周期。出血量は少なめ、月経痛がひどく、メンタルにもくる。
- めまい(立ちくらみ)がある。
- 手足が冷えると肩～背中の凝り・頭痛が悪化。頭痛薬で食欲低下。冬に凍傷ができる。気管が狭い感じ。元来、些細なことでよくよくし、いつまでも気になる性格。腹部から胸にパクパク動悸が突き上がってくる感じ。

<他覚所見>

- 多弁。驚きやすい。予約外の受診が多い。焦燥感が強い。
- 頬部の赤み(+)、手足冷(+)、浮腫(-)、乾燥肌。
- 舌候：淡白紅、乾燥し薄い白苔(1+)、歯痕(-)。
- 脈候：やや沈、弱、数。
- 腹候：腹力2/5、軽度の腹直筋緊張(+)、玄癍(-)、胸脇苦満(-)、心下痞硬(+)、胃内振水音(+)、臍上悸(+)。

図4 臨床経過(症例2)



Discussion

木村：症例1では人参養栄湯は不味く、芍婦調血飲は美味しく感じたとのことでしたが、どのように考えられますか。

渡部：本症例は五味子の酸味がダメだったようです。また、人参養栄湯には陳皮が入っていますが、芍婦調血飲には陳皮に加え烏薬、香附子などの気剤が入っています。本症例は気鬱の傾向があり、気剤が必要だと考えました。

木村：芍婦調血飲と加味逍遙散の鑑別についてのポイントを教えてください。

渡部：芍婦調血飲は脾胃にも優しく気を巡らせるイメージで、イライラよりも不安感が目立つ方に用います。加味逍遙散は熱を冷ます生薬と温める生薬が調和しており、肝気の鬱滞を去り降気と清熱も行い、不安感よりもものぼせ・イライラが目立つ方に適しています。

木村：胃腸虚弱で倦怠感がある場合は参考剤を用いることが多いのですが、参考剤ではなく芍婦調血飲の適応となる倦怠感とはどのような場合ですか。

渡部：参考剤の適応ほどは虚しておらず、血の道症の貧血傾向による倦怠感に良いと思います。